

目次

はじめに

序章

不寛容な社会を克服する道すじ…………… I

1 「幸せになるために生まれてきた」…………… I

デンマークという国 不寛容な社会の日本

2 民主主義の成果としてのノーマライゼーションとソーシャル・インクルージョン…………… 4

ノーマライゼーションとは ソーシャル・インクルージョンとは

3 共生社会を幻想の社会としないために…………… 7

共生社会!? 共に生きるための条件づくり

4 デンマークから何を学ぶのか…………… 8

5 諦めてはいけないことを支える社会システム…………… 10

要求運動あるところに改革あり 諦めない…自ら築いてきた社会問題解決のための方法と

システム

第1章

デンマークにおける施設解体の現実…………… 13

1 北欧における施設解体の現状…………… 14

スウェーデンの施設解体 いち早いノルウェーの施設解体

2 デンマークにおける施設解体の本当の姿…………… 16

3 施設解体の経緯……………18

1978年…アムト(県)が建設。入所者160名でスタート 2010年…社会的批判と
財政ひっ迫により3分割化

4 本場に施設はなくなつたのか——大規模施設から小規模施設へ……………20

「施設」解体—地域移行の考え方…スウェーデンとデンマーク 地域密着型小規模施設
選択可能な多様な居住形態を

5 施設か地域かの議論を超えて……………24

第2章 障がいのある人の地域生活を支える3つの拠点……………27

——親密な人間関係を公共の取り組みがつむぎだす

1 地域で豊かな暮らしをつくる条件……………27

3つの拠点 公的な生活基盤の支え

2 暮らしの場——グループホーム……………31

グループホーム「ターストラップストレイド」の概要 ラウストさんの1週間 ラウストさ
んの生活背景 ラウストさんの経済生活 ラウストさんのグループホーム利用契約書
枠組み法…自由度と地域格差 グループホームの住まい方

3 仕事・日中活動の場——学校、デイサービス……………39

4 趣味・交流の場——アクティビティセンター……………40

支援員の採用は利用者が決める 信頼の高い政治システム 出会いの場

5 公共の取り組みは親密な人間関係を深め発展させる……………44

第3章 生活施設における暮らしの充実と居住形態……………47

第4章

デンマークを知る

——行政機構、ムーネ議会、そして行政システム

デンマークを知るための基礎資料 政治機構と行政組織 自治体改革 コペンハーゲン
ムーネの議員、行政職員 デンマークの労働政策—フレキシキュリティ 国民の暮らし

65

第5章

障がい者団体の運動と活動

1 LEV(全国的障がい者親の会) 思想と要求運動……………79

LEV(レウ)の結成と思想 レウの課題と要求運動 レウのめざすもの レウの活動
前・全国会長シユター・クリステンセンさん

79

2 パーソナル・アシスタンス制度と当事者組織「LOBPA」……………88

パーソナル・アシスタンス制度の成り立ち パーソナル・アシスタンス制度の法的根拠

第6章

人権としての性と平等

——障がいのある人の性を支える

- 1 国家による性の支配からの解放を求めて……………100
国家による性の支配 専門性が問われる現場関係者、専門家
- 2 性は平等と社会参加に重点をおいて……………103
3つの拠点と出会い 性と生の支援は一体的に 出産に関する考え方
- 3 セックスカウンセラーの養成とその役割……………106
国家による性的支援 セックスカウンセラーの資格取得 セックスカウンセラーの存在と仕事
- 4 障がいのある人の性的サービス……………110
障がいのある人、高齢者対象の売春宿、パイオニアライン 多様な支援で充実する日常生活
- 5 性の権利を求める要求運動……………112
LGBTの祭典「コペンハーゲンプライド」 同性婚法の表と裏
- 6 性と結婚に表現されるソーシャル・エクスクルージョン(社会的排除)……………115

第7章

デンマークに学ぶ障がいのある人の自立

- 1 自立とは何か(1)……………119
国家が重用してきた自立概念 「子どもの虐待対応の手引き」にみる政策が示す自立
- 2 自立とは何か(2)——社会保障・社会福祉領域での研究が提示する自立論……………123

終章 幸福を創造する社会的条件……………143

- 3 日本の国が求める自立——その批判的検討……………127
 - 京極高宣氏の「自立」の定義 目標到達型・課題達成型の自立論 家族頼みの自立
 - 自立概念の利用 個を単位とした自立観 「自立支援」にみる、新たな形の社会防衛
- 4 私たちが求める人間的自立……………131
 - 日本の障がい者福祉政策に通底する自立像 自立の実現をめぐつて…田中昌人・真田是厚生労働白書 デンマークの社会制度にみる人間的自立 自由度の獲得と拡大を支える自立支援 親密圏と人間関係 新しい自立観のために
- 5 まとめにかえて…「自立を支援する」という政策の欺瞞性……………138

主観的な幸福度を求める政治は社会全体に寄与する デンマークにおける幸福研究 幸せを測る物差し—GDPと主観的幸福 OECD、WHOの調査が示す幸福の要素 OECDによる幸福の指標 所得格差は大きく、自殺率も高い日本社会 国連、OECDによる幸福研究のススメ 民主主義の成熟度は幸福度調査には表れない 民主主義の成熟度はマイノリティを包摂する政策に表現される なぜ順法国家が断種法を成立させることができたのか 優生思想を克服する社会 健康を義務化する国家と優生思想 価値ある人間関係を生み出しにくい仕組み 価値ある人間関係を生み出すために (QOL)の高い暮らしこそが幸せの証 生活の質

謝辞……………165

〔資料〕社会サービス法第95条・第96条…改正前／改正後……………170

▼コラム ① バリアフルな国……………26

② 歩道に散見、犬のフン……………46

- ③ 自転車大国 …… 62
- ④ デンマークにイクメンはいない? …… 78
- ⑤ HYGGE(ヒュッゲ)でベビーカー、子どもごと放置? …… 97
- ⑥ デンマーク人のこだわり? トイレットペーパーのセットのしかた …… 116
- ⑦ 民主主義を実践する学校 …… 140